

群馬県内の公共交通空白地域が示す コンパクトなまちづくりの必要性

群馬経済研究所 主任研究員 稲田純也

調査のポイント

本稿では、県内における「公共交通空白地域^注」の分布を地図上で可視化し、公共交通の維持に向けた「コンパクトなまちづくり」の必要性を示すとともに、国や県の関連政策、市町村の取組事例を整理し、今後のまちづくりと公共交通の展望を考察した。

要約

- 県内では、市街地だけでなく郊外でも新築着工が行われ、生活圏が拡大している。人口も市街地から郊外へと移動しており、都市の拡散が進行している。
- こうしたなかで、鉄道やバスを利用しづらい「公共交通空白地域」が郊外や中山間地域を中心に広がっている。
- 公共交通の維持には「コンパクトなまちづくり」が欠かせない。国は、まとまりのある居住地域を公共交通で結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方を示しており、各自治体は、地域の実態に即した取り組みを進めようとしている。
- 前橋市は、官民での検討を踏まえた土地利用の見直しや、バス路線の再編などにより、都市機能・居住の誘導と公共交通ネットワークの形成を一体として進めている。
- コンパクト・プラス・ネットワークの実現に向けては、住民がまちづくりに参画できる仕組みを整えることが重要である。住民がまちの将来を自分ごととして考えることで、取り組みの実効性と継続性が高まると考えられる。

注 本稿における公共交通空白地域は、鉄道駅から半径1km圏外、またはバス停留所から半径500m圏外の居住地域とする。